

The  
Kyushu  
University  
Museum

# News

## No.18 九州大学総合研究博物館ニュース

### 学芸員養成ための新課程始まる

この4月から学芸員の専門性を高め、資質を向上させることをねらいとして博物館学芸員養成課程が新課程となりました。これに伴って8科目12単位から9科目19単位に増加し、新たに「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館教育論」が加わりました。九大博物館でも新課程に対処し鋭意教育を進めています。

九州大学総合研究博物館館長 竹田 仰



### I FUKUOKA こども地球防衛隊

—未来の地球を救うのはキミだ!—

開催期間：2012年7月21日(土)～8月30日(木)

場所：福岡市立少年科学文化会館1階学習室

担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授



今年の公開展示は、第5回を数える福岡市少年科学文化会館との合同企画展として開催されました。「環境とエネルギー」をテーマに、数ある九大の研究チームやプロジェクトの中から、「九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所」をピックアップ。水素エネルギーの利用と低炭素社会に向けた研究についての展示となりました。

例年来場者は未就学児～小学校低学年の親子連れがほとんどで、今年は特に、「モノ」ではなく「コト」の展示です。そこで、「触れる・遊べる」を中心に構成し、芸術工学研究院の学生や卒業生などを中心とした起業チームにアニメーションやゲームも制作してもらいました。

右下から左上へ：

写真1) 酸素発生の実験演示(1日2～3回)。手前の台にあるのは、子ども達の紙粘土作品。  
写真2) カードゲーム大会。期間中8のつく日に開催。上位3名の賞品は、研究所特製バッグ！  
写真3) インタラクティブ・ゲーム「CO<sub>2</sub>ばくばく」。(制作：あのラボ)  
写真4) 「水素をつくる」コーナー。(キャラクターデザイン：Trif)

【p.2へ続く】



## 催事・展示クローズアップ

《p.1から続く》

今年の目玉は、学生コミュニケーター。事前にサイエンス・コミュニケーションのレクチャーやコミュニケーション・ワークを研修してもらい、子どもたちの体験を

サポートすることに注力してもらいました。期間中、自主的に手伝ってくれる子ども達のうち、特に熱心な数名を「子どもコミュニケーター」と認定。両者が協力し

て展示の改良や運営をしてくれました。日々、展示のしつらえが改良され、来場者の作品が増えていく会場は、例年になく手作り感のあふれるものとなりました。

### II

#### ー退職記念講演会ー アンモナイトの 不思議な世界

開催日時：2012年3月4日(日)

場所：箱崎キャンパス旧工学部本館3階第一会議室

担当：竹田 仰 博物館館長

第5代館長の松隈明彦教授の退職に伴い記念講演会を旧工学部本館3階第一会議室で開催しました。後任予定の前田晴良京都大学准教授も古生物学が専門なので、お二人には、「アンモナイトの不思議な世界」と題してオウムガイとアンモナイトを対比して語っていただきました。

会場はほぼ満席で講演後松隈教授には

これまでの館の仕事に対して感謝の意味で花束贈呈が行われました。

また、参加者の中にはアンモナイトを持参して両講師に鑑定を依頼する場面もありました。



### III

#### ー協働特別企画ー 場を越える

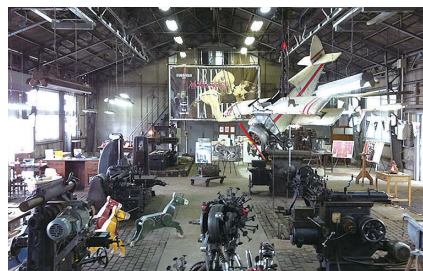
開催期間：2012年5月21日(月)～6月10日(日)

場所：箱崎キャンパス総合研究博物館

第一分館倉庫(旧知能機械実習工場)

担当：三島 美佐子 開示研究系・准教授

津田 三朗 水族館劇場/九大芸工工房



を手がける近藤ちはる氏のアートワーク、津田三朗氏の小道具、そして中原蒼二氏の舞台写真を中心に、大道具も含め、普段の舞台では垣間見ることしかできない品々を、間近でじっくりご覧いただくというものでした。期間中、小道具作りのワークショップ、

劇団脚本家の桃山邑氏や現代演劇研究者でもある梅山いつき氏をそれぞれゲストにしたサイエンスカフェ、作家らによるギャラリートークなども開催されました。

5/25～6/4は水族館劇場博多公演「NADJA 夜と骰子とドグラマグラ」がベイサイドプレイス博多にて上演されていたため、関東など遠方からのファンの皆さんにもご来場いただきました。滞在時間が1時間前後と長い方が多く、また、初対面の方同志が会場で楽しそうに、展示物や水族館劇場についてお話される姿も多々見られ、とてもなごやかで密度の濃い展示となりました。

昨年度2月、当館第一分館倉庫で「機械仕掛けの糸姫」を特別上演した水族館劇場との協働展示です。水族館劇場の宣伝美術

### IV 飯盛山瓦経、福岡市指定文化財となる！

指定書交付式：2012年3月26日(月)

場所：福岡市役所

担当：岩永 省三 一次資料研究系・教授

当館の第一分館にある旧玉泉館資料中の福岡市西区飯盛山出土瓦経3点が福岡市指定文化財となりました。当館初の指定

文化財です。瓦経とは粘土板に経文を刻み焼き固めたもので、末法の世に経典が失われるのを恐れ、弥勒下生の未来まで地下に埋めて保存する経塚造営習俗の産物です。紙本経を容器に納めて埋めた例が多く、瓦経は全国で36例と少なく、制作年代(永久2(1114)年)が判り出土状況が復元できる飯盛山瓦経は貴重です。



福岡市役所で  
指定書交付式  
(写真奥、中央：  
竹田館長)

大正13年に飯盛山山頂から400点以上が出土したものの、その後分散し現在では約半数しか残っていません。当館所蔵品は、九大考古学教室の3点などとともに今回指定されました。



# Close-up Event & Exhibition

## V 九大ミュージアムバス福岡市内を巡回

開催期間：2012年7月1日(日)～2013年2月末(予定)

場所：西鉄バス車内

担当：松岡 紗央 九州大学研究生

竹田 仰 博物館館長

九大博物館の所蔵品を紹介するポスターが、福岡市内を走る西鉄バスの車内で展示されています。国内屈指の標本数を所蔵する九大博物館を、より多くの人に知ってもらえたいです。

この標本ポスターは月替わりで、現在バス1台に限定で広告用のスペース両サイドにB3判で27枚を掲示しています。7月は孔雀石や蛍石といった鉱物標本、8月は胡椒やタコノキなどの植物標本、9月はヘラクレスオオカブトムシやコノハチョウなどの昆虫標本、10月には鉱物標本パートIIとして、7月の時点で扱っていなかった鉱物を紹介しています。この試みは来年2月末まで、このあと土器や青銅製の武器などの考古学品や工学部発足当初の旋盤やボール盤などの工作機械類を順次展示予定です。

ポスターは西鉄バス内だけでなく、九大ミュージアムバスのFacebookページ(<http://www.facebook.com/KUMBp>)からも見ることができます。このページには、標本ポスターとその解説が毎日



昆虫ポスターの1枚の拡大



バス展示風景

投稿されており、紹介した標本についてさらに理解を深めるための小話も読むことができます。

ポスターの制作やFacebookの運営は、九州大学芸術工学府の学生有志が中心となって行っています。標本をわかりやすく紹介するためのキャッチコピーを考えたり、ポスターのレイアウトを検討したり、Facebookに投稿の準備をしています。

これらのプロジェクトの試みが関心を集め、朝日新聞(7月2日)には「九大博物館「お宝」紹介ミュージアムバス走る」、産経新聞に「走る博物館、運行開始」、日経新聞の「窓」欄にも同様の掲載(共に7月13日)がなされ、読売新聞(8月28日)には「来て見て九大博物館、屈指の標本数 学生が車内ポスター」など各紙に取り上げられました。

## VI 全国大学博物館等協議会で講演しました

開催期間：2012年6月21日(木)～22日(金)

場所：京都大学総合博物館

担当：岩永 省三 一次資料研究系・教授

6月21・22日に、京都大学総合博物館で大学博物館等協議会2012年度大会・第7回博物科学会が開催されました。冒頭のシンポジウム「大学博物館の原点」で、京都大学総合博物館の創設時に尽力された京都大学名誉教授・河野昭一氏に

続いて岩永が講演しました。全国の大学博物館の活動が、それぞれ暗中模索を脱して軌道に乗ってきたという現状をほぼ共有していると認識した上で、あらためて広範に展開する大学博物館の諸活動を俯瞰して業務分野を横断した問題点を見出し、その乗り越え一決して容易ではないが一方向性を、大学内の縦割り構造、大学内の差別構造、大学という閉鎖構造の乗り越えの潜在力を持つ大学博物館の立ち位置、という視点から考えてみました。



大野照文館長はじめ京大博物館スタッフ諸氏との緊密な意見・情報交換は実り多

いものでした。博物科学会終了後、京大総合博物館の充実した施設を詳細に拝見し、伊都キャンパスでの博物館建物建設に向けたエネルギーを充電できた有意義な二日間でした。

# Series : OIKAKETE

## シリーズ・追いかけて

### 昆虫を追いかけて ペルーのハネカクシとツノゼミ

担当: 丸山 宗利 開示研究系・助教

2012年の1月に南米のペルーで調査を行いました。ペルーは遠いところで、まず、博多から成田、ニューヨークと乗り継ぎ、ペルーの首都リマまで25時間。さらに、リマからサティボという低地の町まで、途中で4800mのアンデスの峠を越え、タクシーを3回乗り



激流を渡る

継いで10時間。サティボに1泊し、翌朝、タクシーで3時間かけてシマの集落に着き、原住民の集落で挨拶した後、川を渡るなどして2時間歩き、ようやく目的地の山小屋に到着です。小屋は森に囲まれ、無数のチョウが飛ん



宿泊した山小屋

でいます。今回の目的はグンタイアリと共生するハネカクシという小さな甲虫を採集することでしたが、森を歩くとすぐ

にそのグンタイアリも見つかりました。兵アリは湾曲した大きなアゴをもち、異様な姿です。



グンタイアリの兵アリ

集団でさまざまな昆虫や小型のトカゲなどを襲い、南米の森林の強力な捕食者として知られています。ダニやシミ、甲虫など、さまざまな生物が共生しており、それぞれが異なった生活をおくっていますが、ハネカクシはアリに紛れ込み、アリと一緒に狩りに出陣し、アリの捕まえた餌のおこぼれを盗み食います。ハネカクシはアリにそっくりの姿をしており、慣れるまで見つけるのに苦労しました。

南米では私の好きなツノゼミのなかまも豊富です。グンタイアリは主に夜間に



グンタイアリと共生するハネカクシ

活動することから、昼間はツノゼミを探して歩きまわりました。ヨツコブツノゼミやバラトゲツノゼミなど、いつか実物を見たいと思っていたものがたくさん見られ、とても感激しました。結局、10日間ほどの採集調査で、目的のハネカクシに

加え、100種以上のツノゼミを採集することができました。

毎日朝から晩までジャングルを歩きまわり、ヘトヘトになって山小屋へ帰って来たときの楽しみは、なんといっても



ヨツコブツノゼミ

食事です。しかし、ガイドの計算不足で、おかずが全く足りません。このとき、

私が持ってきた釣竿が大いに役立ちました。パッタを捕まえて針に刺し、小屋の近くの川の淀みに落とすと、面白いように魚が釣れるのです。多くは南米固有のカラシン科の魚で、素揚げにしておいしくいただきました。

今回は雨季であるにもかかわらず、雨に遭ったのは1日だけで、たくさんの虫を採集することができました。また、よく訪れる東南アジアと南米では生息する昆虫の仲間が全然違うため、その点でもこれまでにないとても楽しい調査でした。ただ、悲しいこともありました。訪れたシマの森では大規模な森林伐採が進んでおり、滞在中も次々に大木が切られてしまったことです。残念ながら、次に訪れるときにシマの森が残っていることはなさそうです。

次回はカンボジアでの調査について紹介します。

### COLUMN

### 博物館こぼれ話



### 歩く骨格標本

担当: 竹田 仰 博物館館長

語源から覚える単語集「骨単」を出版のNTS吉田隆社長(九州芸術工科大学工業設計卒)から動物骨の3次元

計測を依頼されたのが数年前のこと。ヤギ、キツネ、霊長類などの骨格をコツコツ3次元レーザー計測器で入れているうちに、科学研究補助金に採択されました(博物館ニュースNo.17, p.7参照のこと)。そこで、骨格をアニメ化して「動物骨格標本図鑑」を思い付きました。ヤギの骨にデジタル端末器をかざすとヤギの歩く姿が画面に現れます。このような技術

をAR(拡張現実)と呼んでいます。つまり、実際の骨に3DCGが合わさって両方見えるからです。このことが朝日新聞のくいんたびゅう欄に「骨格標本3Dアニメに一眠る收藏品デジタル化」(2月19日福岡版)として掲載されました。この記事からKBC九州朝日放送アサデスから声が掛かり9月5日に放映されました。続いて、同月27日のTNCテレビ西



日本の夕方のニュースにも出演しました。「KBCアサデス」で検索すれば番組をご覧いただけます。

## Series: Museum Jobs from A to Z

シリーズ・大学博物館のお仕事紹介

博物館専門研究員報告

## “楽しい”がベッドサイドに出かけて行く Bed Side Museum –小児医療場面での実施–

阿部 祥子 総合研究博物館・専門研究員



写真1) 手に取って楽しむことができる展示形式



写真2) 展示の楽しみ方は、子どもたちによって様々です



写真3) 子どもたちのベッドサイドまで、展示もおでかけ

「博物館に展示を見に行く事がある。建物の中までは行けるけど、娘は(常に仰向けの姿勢だから)覗き込めず結局展示は見られない。『Bed Side Museum』では展示物や解説を手にとれる形だから、娘にも見せてあげられてすごく嬉しい」。これは、Bed Side Museum 会場での、大型のベッドで仰向けの体勢で生活する女の子の母の言葉です。「Bed Side Museum」では、主に医療的配慮が必要な子どもを対象に展示を企画・実施。車いすに座った状態など多様な鑑賞形態を想定し、展示箱を固定せず手に取れる形式にするなど、展示形態を検討し実施します。

まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。学生時より小児の療養環境に関心を持ち2011年3月に九州大学統合新領域学府を修了、その後「従来の博物館における場や機能にとらわれない新たな博物館的場のあり方についての実践的研究」として「Bed Side Museum」を企画。2011年10月より三島美佐子先生の受け入れのもと、九州大学総合研究博物館にて専門研究員として在籍しております。専門は、感性学、子ども学、保育です。

さて「Bed Side Museum」は各分野の専門家のご協力を賜り毎回テーマを設定し実施しています。2012年8月2日に

福岡市立子ども病院のロビーにて宇宙をテーマに(中牟田義博准教授監修)、続いて昆虫をテーマに(丸山宗利助教監修)開催。これまで5カ所で開催しました。特に熊本大学医学部附属病院小児科での開催では、丸山助教のご協力のもと360度展示を鑑賞できるアクリル製の標本箱を製作。治療の為に病室を出られない子どもたちのベッドサイドを訪問し展示を展開しました。開催を重ねる毎に感じる事は博物館には子どもたちの好奇心を刺激するどきどきの「種」が詰まっていることです。その種は幾通りもの「形」になり得る事を信じ、実践的研究を続けていきたいと思えます。

## COLUMN

## これも館員のお仕事

### 博物館員 の仕事あれこれ

担当: 福原 美恵子 研究支援推進員

常設展示室・特別展時の会場に置いてあるアンケート用紙。この作成、集計も館員のお仕事です。

これまでのデータとご意見は、館の活動に反映させています。例として、子供向けの展示の場合、説明パネルの読み手の対象はあえて親にし、展示内容を親子それぞれに伝えるだけでなく、親から子供への導線を作りました。また、館に足を運ぶ学生が少ないことから、ニュース、ウェブサイト、SNSを通じて館の活動を多面的に発信しています。

アンケート用紙は、A5サイズ(A4の半分)です。聞きたいことはたくさんあるのですが、来場者の方が記入を面倒に思うようではいけないと、この大きさです。

あっ、アンケート回収箱も手作りなんですよ。



## シリーズ・九大博物館での研究の紹介

No.15から始まった研究紹介シリーズでは、科研費による研究を紹介しています。

科学研究費補助金による研究:その7

# 異常なサイズの異常巻アンモノイド:菱鉄鉱ノジュールの謎

研究代表者: 前田 晴良 分析技術開発系・教授 専門:古生物学

化学物質が地層中に二次的に濃集した球状の塊をノジュールといいます。例えば海成の泥岩では、アンモノイド類の化石を含む石灰質(CaCO<sub>3</sub>)ノジュールがよく形成されます。一方、河口デルタなど陸成層中には、菱鉄鉱(FeCO<sub>3</sub>)ノジュールが形成されます。

この菱鉄鉱ノジュールは、硝酸還元を行う嫌気的細菌による有機物の腐敗が引き金となり、堆積直後に形成されたものです。一方、硫酸塩(SO<sub>4</sub>)が豊富な海中では、菱鉄鉱が形成される化学的領域が限られるため、希にしか存在しないというのが定説でした。

ところが、故・早川浩司博士は、海成層中にも菱鉄鉱ノジュールが数多く含まれることをいち早く見つけました。志半ばで夭折した彼の後を受けて、筆者はアメリカ自然史博物館のN.H. Landman博士

とともに、海成層中の菱鉄鉱ノジュールと化石の関係を探る研究を受け継ぎました。その結果、菱鉄鉱ノジュール中(図A)に含

ールから産した個体です。

一方、図Bは北米サウスダコタ州の白亜紀層の例で、左が通常の石灰質ノジュール、

右が菱鉄鉱ノジュールです。

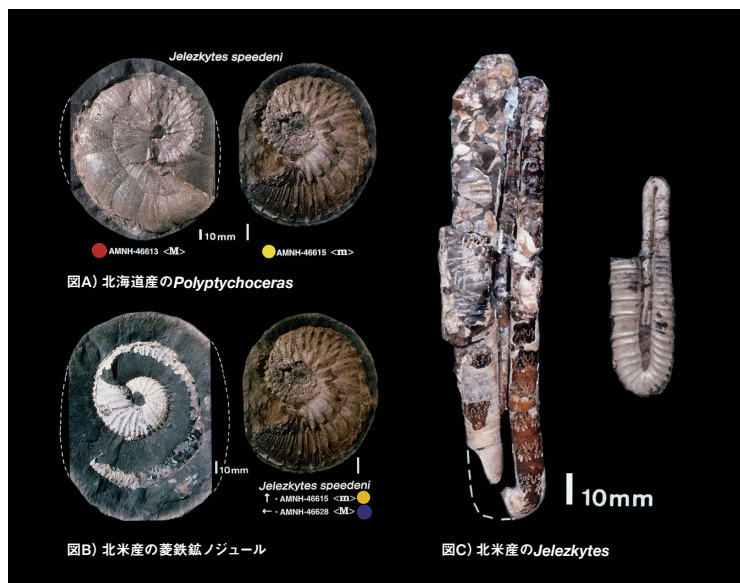
この種類は同一種内に小型のm(♂?)と約1.5倍大きなM(♀?)の二型があります(図A)。右の菱鉄鉱ノジュール中のmが通常より1.5倍も大きく、より大きいはずの左の普通のMとほとんど変わらない大きさです。

菱鉄鉱ノジュールが形成されるのは、溶存酸素やエサに乏しい、本来、生物が暮らしにくい特殊な環境です。ところが、逆に『えらくガタイのイイ奴』ばかりがそこに

生息していたらしいのです。

その原因は不明ですが、菱鉄鉱ノジュールを手がかりに、これら『異常にガタイのイイ連中』の生息環境を探る研究を、いま進めています。

(基盤研究C(一般):層位・古生物学 平成21年度~平成23年度)



まれる異常巻アンモノイド(=殻の巻きが解けたり棒状に伸びた種類)の殻サイズが異常に大きいことに気がきました(図B、C)。

例えば、図Cは北海道・白亜紀の同一種で、左が菱鉄鉱ノジュールに富む地層から産した個体、右は普通の石灰質ノジュール

## COLUMN

## 館員活躍録

## 日本昆虫学会賞を受賞

担当: 丸山 宗利 開示研究系・助教



ツクミノミバエ

丸山宗利助教が雑誌 Entomological Science に掲載された論文「Discovery of the termitophilous subfamily Termitoxeniinae (Diptera: Phoridae) in Japan, with description of a new genus and species (好白蟻性シロアリノミバエ亜科の日本からの発見、ならび

に1新属新種の記載)」で日本昆虫学会賞を受賞しました。小松貴氏(信州大学)とR. Henry L. Disney(ケンブリッジ大)との共同研究で、日本から4属4種を発見、うち1種を新属新種 *Selenophora shimadai* (ツクミノミバエ)として記載しました。いずれもシロアリの巣に共生する異様な姿をしたハエで、多くの研究者を驚かせました。

## 日本考古学協会賞大賞を受賞

担当: 舟橋 京子 開示研究系・助教

舟橋京子助教が執筆した「抜歯風習と社会集団」(2010年すいれん舎)が日本考古学協会賞を受賞しました。九州考古学会賞大賞に続きダブル受賞です。

訂正:前号で舟橋京子助教の肩書きが“教授”となっていました。正しくは“助教”でした。

※ 上記の訂正内容について、オンライン版では修正済みです。



## Series : Research at the Kyusyu University Museum

## 特別寄稿

博物館関係者の研究報告

## 馬出地区出土の九大特注白磁について

田尻 義了 埋蔵文化財調査室 学術研究員 専門:考古学

写真の資料は、馬出地区の病院建て替え工事に伴って出土した白磁で、碗・小碗・蓋・皿などがあります(写真1)。これらの白磁には青い顔料で描かれたロゴマークが認められ、縦に「大學」と読める円形のマークや、横に「醫院」と読める

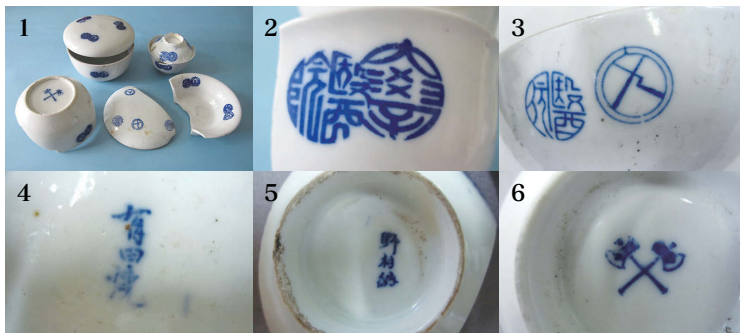
マークがあります(写真2)。また、丸の中に「九」の字を崩したようなマークが描かれています(写真3)。

九州大学は2011年で創立100周年を迎えましたが、その始まりは1903年(明治36)に京都帝国大学福岡医科大学として、現在の馬出

地区に今日の医学部が設立されたのが端緒です。なお、帝国大学時代(昭和22年10月以前)は病院のことを「醫院」と呼称していましたので、これらは帝国大学時代にロゴマーク入りで注文され、使用された製品と考えられます。また、これらの白磁と共に出土した資料を考古学的に検討したところ、1935年(昭和10)前後にゴミ穴へ廃棄されたものであることが

判明しました。

問題はこれらの製品がどこで製作され、医学部のどの部局が何のために使用していたのか。また、丸の中に「九」のマークは九州帝国大学を示すのか、など多くあります。現在、埋蔵文化財調査室では、これら



の問題を解決すべく調査を進めています。

さて、資料のいくつかには別のマークが確認できます。「有田焼(写真4)」「野村納(写真5)」「2つの斧のクロス(写真6)」などです。「有田焼」と記載されていることから、佐賀県立九州陶磁文化館の方に鑑定していただいたところ、胎土は有田で間違いなくのお話を聞くことが出来ました。したがって、資料は記載通り有田で製作

されたものと考えられます。「野村納」に関しては陶磁文化館の方々もよく分からないとのことでした。「2つの斧のクロス」についても不明です。使用した部局を示していて、外科や解剖学講座などのマークなのではないかとも考えられます。

多くの点が不明ですが、先日京都大学の構内からこの白磁に類似した資料が出土していることが判明しました。青い顔料で円形のロゴマークに「醫院」と読める資料です。九州大学の前身が京都帝国大学福岡医科大学として発足したことと関連

あるのかもしれませんが。

謎の多いこの資料に関して、何かご存じの方がいらっしゃいましたら、是非とも情報提供をお願いいたします。

上段、左から：  
写真1) 馬出地区より出土したロゴマーク入りの白磁群  
写真2) 縦に「大学」、横に「醫院」のロゴマーク。  
写真3) 丸の中に「九」の字をデザイン。九州帝国大学の意か？  
下段、左から：  
写真4) 「有田焼」と記載  
写真5) 「野村納」意味不明  
写真6) 「2つの斧のクロス」使用部局を示しているのか？外科？解剖？

## COLUMN

## 館内探訪

## 工作機械へのお誘い

担当: 瀬戸 浩貴 博物館協力研究員

九州には歴史的に貴重な工作機械が多く残されています。鹿児島尚古集成館、熊本大学、三菱重工の長崎造船所、北九州市の九州工業大学などに所蔵の工作機械は、国の重要

文化財に指定されていたり、近代化産業遺産に認定されています。

当館第一分館に収蔵の11台ほどの歴史的な工作機械は、まだそのどちらにも指定されていません。しかし、1911年にアメリカから輸入されたドリル研削盤など、購入時期や経緯から見て決して見劣りするものではありません。

こうした「埋もれた」貴重な工作機械は、実はまだまだ、そして思いのほか身近にあります。学校であったり、まちの鉄工所であったり。しかも「埋もれているとは失礼な!」と言わんばかりに現役です。当館の機械たちも電気がくれば動きますので、動態展示をめざして整備をすすめているところです。どこかでふと工作機械をみかけましたら、ご一報ください。

また、当館の機械整備・工場整備のボランティアも募集しています。



今年、伊都キャンパスから戻ってきた「立削り盤(スロッター)」

## Personnel Changes

### 人事往来

### 前田先生、着任の挨拶

私は、このたび8月1日付で京都大学理学研究科から九州大学総合研究博物館に移って参りました。専門は古生物学で、アンモナイトを中心とする化石をテーマに研究しています。九州大学伝統の現場主義を尊重し、また市民の皆様にも研究成果をお伝えするよう努力する所存です。

九州大学総合研究博物館  
分析技術開発系・教授

前田 晴良



### 着任

平成24年10月1日付で、西本法子さんが事務補佐員として着任しました。

## 博物館施設一般公開

- 九大百年まつり部局等研究公開  
「箱崎キャンパス公開」  
日時：平成24年5月12日(土)  
公開施設：常設展示室、第二会議室、第一分館  
入場者数：350名
- 「伊都に博物館がやってくる！」  
日時：平成24年5月13日(日)  
公開施設：伊都キャンパス 2104教室
- 九州大学総合研究博物館  
第一分館倉庫(旧知能機械実習工場)一般公開  
(精密工学会秋季大会開催記念・歴史的工作機械展示)  
日時：平成24年9月12日(水)～9月16日(日)  
公開施設：第一分館

## Activities of Exhibitions & Conference

### 展示・講演会関係の活動状況

### 特別展示

- 「松本コレクション展」  
日時：平成24年3月4日(日)～5月18日(金)  
場所：総合研究博物館常設展示室  
入場者数：715名
- 九州大学総合研究博物館「ミライニツムグ」特別展示  
「闇夜にきらめく蛾」  
日時：平成24年5月21日(月)～8月31日(金)  
場所：総合研究博物館常設展示室
- 九州大学総合研究博物館・水族館劇場協働特別企画  
「美術道具・宣伝美術展示 場を越える」  
—大水族館劇場展 星澄ム郷から—  
日時：平成24年5月21日(月)～6月10日(日)  
場所：総合研究博物館第一分館倉庫
- 九州大学総合研究博物館「ミライニツムグ」特別展示  
「アリの巣の生きもの」  
日時：平成24年7月30日(月)～8月31日(金)  
場所：総合研究博物館常設展示室
- 志摩歴史資料館夏季企画展(九州大学社会連携事業)  
「九州大学総合研究博物館所蔵  
鳥山邦夫コレクションより」  
日時：平成24年7月28日(土)～9月2日(日)  
場所：志摩歴史資料館
- スタチオボント10周年記念作品展(九州大総合研究博物館共催)  
「アルファベットのつなぐ時間」  
日時：平成24年10月6日(土)～14日(日)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館  
3階常設展示室、同4階会議室、同5階展望室

「九州大学教育・研究の最前線」  
—第11回P&P研究成果一般公開—  
日時：平成24年10月19日(金)～11月18日(日)

場所：箱崎キャンパス  
旧工学部本館3階301、340、341  
開館時間：10:00～16:30  
(土・日も開館。期間中、常設展示室も開室しています。)  
九州大学で行われている研究成果を一般の方に向けて発表致します。



### 公開展示

- 第5福岡市立少年科学文化会館・九州大学総合研究博物館合同企画展  
「FUKUOKA こども 地球防衛隊  
—未来の地球を救うのはキミだ!—」  
日時：平成24年7月21日(土)～8月30日(木)  
場所：福岡市立少年科学文化会館  
入場者数：15,653名

### 講座

- 九州大学総合研究博物館「ミライニツムグ」  
演劇舞台制作ワークショップ(小道具大道具制作)  
「場を造る一瞥と迷宮」  
日時：平成24年4月28日(土)、29日(日)  
場所：総合研究博物館第一分館倉庫
- サイエンスコミュニケーション基礎講座 in 九州  
「サイエンスコミュニケーション基礎 I」  
日時：平成24年7月4日(水)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部5号館5階大講義室

## Qカフェ2012シリーズ

- 「場の力 —機械仕掛けの宿神 呼応する場と記憶—」  
日時：平成24年4月20日(金)  
場所：総合研究博物館第一分館倉庫
- 「九州に生き続ける芸能の祝神」  
日時：平成24年5月28日(月)  
場所：総合研究博物館第一分館倉庫
- 「科学茶話会：  
東南アジアに見られるアリと植物の不思議な関係」  
日時：平成24年8月4日(土)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館3階
- 「科学茶話会：かわいいつノゼミのせいかつ」  
日時：平成24年8月5日(日)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館3階

## 運営委員会

平成24年 4月24日(書面回議)  
平成24年 5月23日  
平成24年 7月13日(書面回議)  
平成24年 7月25日(書面回議)

平成24年 8月31日(書面回議)  
平成24年10月 1日

## 団体見学

平成24年 4月 5日 九州大学新任教員研修  
平成24年 5月12日 九州大学創立百周年記念事業  
平成24年 6月15日 九州大学近代建築物調査WG  
平成24年 6月27日 志摩町歴史資料館ボランティア

平成24年 7月31日 古賀市千鳥寺子屋  
平成24年 8月 4日～6日 九州大学オープンキャンパス  
平成24年 9月11日 古賀東中学校  
平成24年 9月27日 箱崎小学校